

難民救援活動 素早く

14カ国で「医師団」

協同ネットワークの山岡医師

カンボジアやソマリアなど難民の医療救援活動を展開しているアジア医師連絡協議会（AMDA）は、本部長岡山市、菅波茂代表Ⅱが五月、アジア十四カ国の医師で組織する「アジア多国籍医師団」を発足させる。AMDAによると、国の枠を超えて各国の医師が非政府組織（NGO）の医療チームを結成するのは世界でも例がないという。

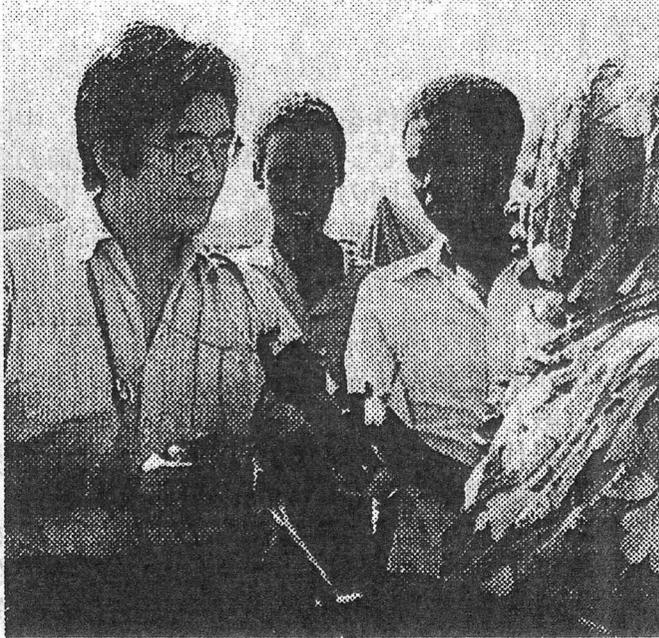
難民や自然災害による被

災民ら緊急を要する医療救援活動が目的。AMDAに名を連ねている日本をはじめ、ネパール、フィリピン、インドなど十四カ国、約四百人が参加する予定。

これまで日本のNGOが海外で救援活動を行う場合、現地の情報収集や資金、人材集めなどに時間がかかり、欧米の組織などに比べ対応が遅れていた。多国籍医師団は、十四カ国にまたがるネットワークを生かして各支部から直接医師を送り込み仲介役を務めるため、素早い現地入りとともに伝統医療や宗教、言語など現地のニーズに的確に対応できる。

ストを作成中。現地入り可能な医師を常時三十人リストアップしておく。当面AMDAなど国内のNGO四団体が共同で展開中のソマリア難民救援プロジェクトに参加する。

AMDAの津曲兼司事務



ソマリア難民の診療に当たる津曲事務局長

AMDA本部ではコンピューターに経験や専門分野、派遣希望先など会員リ